

特用林産シリーズ 3

特用林産物栽培カレンダー



山梨県森林総合研究所

ウコギの栽培

ウコギという植物

ウコギは、林縁などに自生している落葉小灌木で、山形県などでは古くから利用されている山菜である。ウコギ飯やウコギの天ぷら、うこぎうどんなど様々なものに利用でき、薫り高い山菜である。

ウコギの根皮は五加皮と呼ばれる生薬で、滋養強壮効果があるといわれている。この五加皮を酒に漬けた五加皮酒が販売されている。



ウコギの栽培

ウコギの栽培環境

ウコギの自生地は林縁入れておく。などの半日陰の場所である。しかし、標高が500m以上の場所では畑でも栽培が可能である。腐植質の土壌を好むため、定植予定の場所に腐葉土を入れておくとその後の成長が良くなる。

ウコギの苗作り

ウコギは苗の流通が少ないため、山取り苗または挿し木苗用いる。挿し木は3月頃葉がでる前に挿し穂をとる。挿し床は底にくん炭を敷いた鹿沼土単用で行う。挿し穂に発根促進剤をつけ、挿し穂を挿し床に挿し、湿度を保ちながら管理をすると2～3週間で発根する。発根後、鉢上げを行い、1ヶ月ほど管理して、苗を作成する。

栽培管理

ウコギの栽培では、病害虫の被害はほとんど見られない。収穫後に葉柄の部分に入る虫が確認されているが、収穫時期を過ぎた葉に入ることと枯死するなど甚大な被害を与えないため、無視して良い。

収穫は枝から出た新葉と、その後に発生する徒長枝の先端が柔らかく、食べるのに最適である。多少の苦みはあるものの、ウドに似た香りを楽しむことができる。

ナメコの原木栽培

ナメコというきのこ

ナメコは、秋から初冬にかけてナラやサクラの倒木に発生する腐生性のきのこ。

現在、ナメコはいつでも何処でも手に入りやすい一般的なきのこであるが、ほとんどのナメコは、オガ粉を主原材料とした、菌床栽培の物がほとんどである。

原木栽培のナメコは、発生時期が限られているが、菌床栽培の物に比べて、香りが高くおいしいきのこである。



ナメコの原木栽培法

原木の準備

ナメコの原木栽培に使用する原木は、ナラ類、サクラなどが適している。原木は木口8～12cmのものが最適である。

原木の準備

原木は接種する2～3週間前に伐採し、90cmに玉切りし、日陰で保管しておく。接種の直前に15cmに玉切りし、切り口を合わせるように二つ一組にしておく。

種菌の準備

原木を玉切る際に出たオガ粉とその1/4の量の米ぬかを混ぜ、水を加え、強く握って水が出るくらいに調製する。種菌を細かくしながらまんべんなく混ぜる。

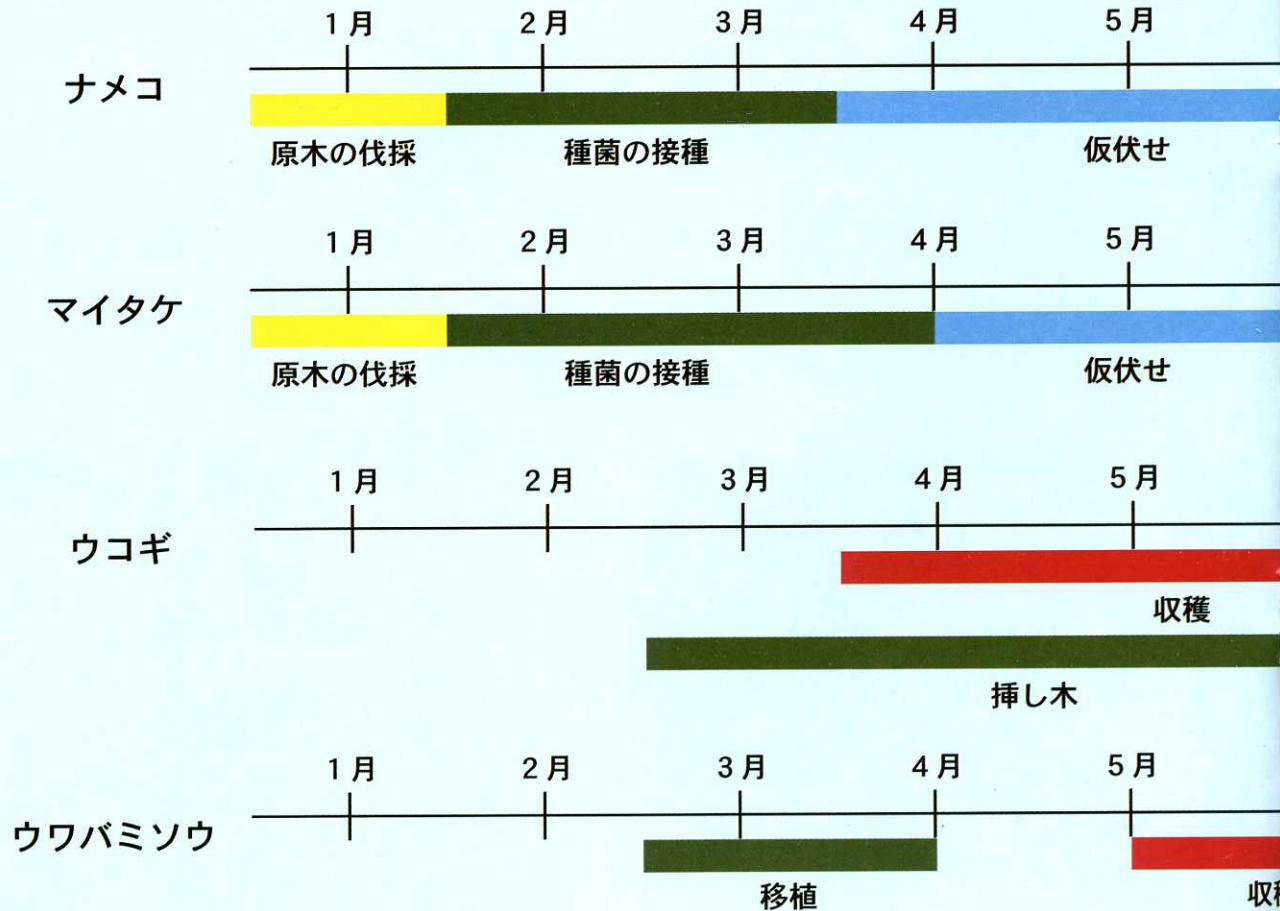
種菌の接種

調製した種菌を中央部が少し、くぼむように力を入れながらのせる。その上に残りの原木をのせ、結合部をガムテープでふさぎ、種菌がこぼれないようにする。上下をビニールひもで固定し、日陰に起き乾かないように灌水しながら管理する。

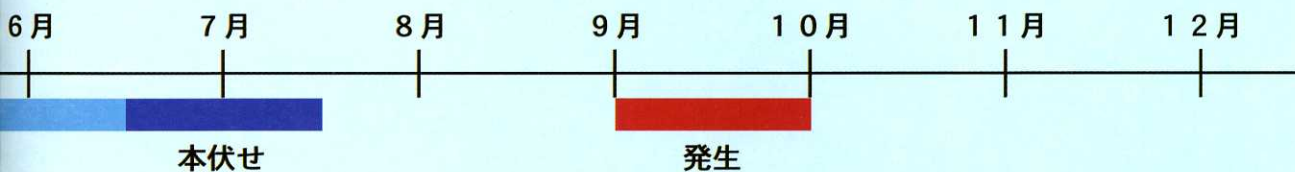
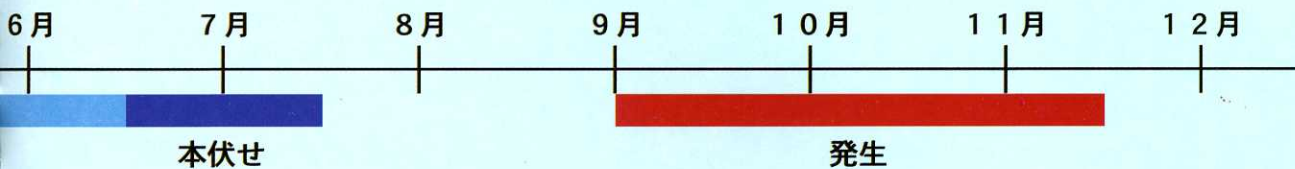
本伏せ

本伏せの場所は、少ししめった林内や日陰にする。原木に菌がまわったら、種菌部を上にも原木を半分程度土に埋める。乾かないように灌水しながらきのこの発生を待つ。

特用林産物栽培



栽培カレンダー



ウワバミソウの栽培

ウワバミソウという植物

ウワバミソウは、湿り気のある林内や沢筋といったところに自生する植物。

春先の新芽をお浸しや炒め物などにしてしゃきしゃきとした歯ごたえを楽しむほか、根元を利用したウワミズトコロ、秋のむかごを利用したお浸しなど、春から秋まで楽しむことができる山菜である。



ウワバミソウの栽培

ウワバミソウの栽培環境

ウワバミソウの自生地は湿った林内や沢筋のような場所であるから栽培適地は湿り気のある場所が適している。日当たりはよくない場所のほうが長期間にわたり収穫できる。畑などで栽培する場合には寒冷紗などが必要になる。

ウワバミソウの苗作り

ウワバミソウは一般的に苗の流通が少ないため、山取り苗を用いる。春先に芽が出始めたころに移植するのがよい。苗を作るには秋むかごが黒く熟したころに苗床にまく。ほぼ枯死することなく苗を作成することができる。

栽培管理

ウワバミソウの栽培において注意するのは乾燥である。乾燥すると茎が硬くなり収穫できなくなるので、収量を確保するためにも乾燥には注意が必要である。収穫は茎が15~20cmに伸びたところで収穫する。また、秋に収穫するときはむかごが熟しきる前に収穫する。むかごが熟しきるとむかごの部分でバラバラになってしまうのでその前に収穫し塩漬けなどで保存する。病害虫は特に発生しないので心配する必要がない。

マイタケの原木栽培

マイタケというきのこ

マイタケは、秋から初冬にかけてナラやサクラの倒木に発生する腐生性のきのこ。

現在、マイタケはいつでも何処でも手に入りやすい一般的なきのこであるが、ほとんどのナメコは、オガ粉を主原材料とした、菌床栽培の物がほとんどである。

原木栽培のマイタケは、発生時期が限られているが、菌床栽培の物に比べて、香りが高くおいしいきのこである。



マイタケの原木栽培法

原木の準備

ナメコの原木栽培に使用する原木は、ナラ類、サクラなどが適している。原木は木口8～12cmのものが最適である。

原木の準備

原木は接種する2～3週間前に伐採し、90cmに玉切りし、日陰で保管しておく。接種の直前に15cmに玉切りし、切り口を合わせるように二つ一組にしておく。

種菌の準備

原木を玉切る際に出たオガ粉とその1/4の量の米ぬかを混ぜ、水を加え、強く握って水が出るくらいに調製する。種菌を細かくしながらまんべんなく混ぜる。

種菌の接種

調製した種菌を中央部が少し、くぼむように力を入れながらのせる。その上に残りの原木をのせ、結合部をガムテープでふさぎ、種菌がこぼれないようにする。上下をビニールひもで固定し、日陰に起き乾かないように灌水しながら管理する。

本伏せ

本伏せの場所は、少ししめった林内や日陰にする。原木に菌がまわったら、種菌部を上にも原木を半分程度土に埋める。乾かないように灌水しながらきのこの発生を待つ。



八ヶ岳薬用植物園

お問い合わせは
山梨県森林総合研究所まで

山梨県南巨摩郡増穂町最勝寺2290-1

電話 0556(22)8001

FAX 0556(22)8002